

## 中谷宇吉郎 雪の科学館 通信

NAKAYA UKICHIRO  
MUSEUM OF  
SNOW AND ICE

開館20周年特別号

2014(平成26). 11. 1

発行/中谷宇吉郎 雪の科学館  
〒922-0411 石川県加賀市潮津町イ106番地  
TEL 0761-75-3323 FAX 0761-75-8088  
URL▶ <http://www.kagashi-ss.co.jp/yuki-mus/>  
E-mail▶ [yuki-mus@angel.ocn.ne.jp](mailto:yuki-mus@angel.ocn.ne.jp)

# 中谷宇吉郎雪の科学館 開館20周年

平成6年(1994)11月1日に開館し、今年26年(2014)、20周年を迎えました。



氷が釣れたよ！子ども雪博士教室では、雪・氷やその他の楽しい実験・工作をしてきました。



磯崎 新 氏の設計で建てられてから20年たち、周りの桜の木々も大きく育ちました。

皆さまのご協力に感謝します。ありがとうございます！！



岩手県沢内村の雪国文化研究所(高橋喜平 所長)から授与された雪国文化賞のメダルです。



2012年4月、中谷博士の没後50周年でのお墓参り。お墓は加賀市中島町の共同墓地内にあります。

# 中谷博士の言葉から

自然をよく見よ！  
人には親切に。

中谷博士のお弟子さんたちは、博士からよくこう言われたそうです。博士の人柄が感じられる言葉です。

「ねえ、ふしぎだと思いませんか？」\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_「大切なのは役に立つことだよ。」

中谷博士の随筆を読むと、恩師・寺田寅彦先生はお弟子さんたちにこう語りかけ、科学の魅力を説いたことがわかります。中谷博士は子どもたちに語りかけるとき、寺田先生の手紙をよく紹介しています。



『霧退治 - 科学物語』(1950)という本は、日本が戦争直後で苦しかった時期に子ども向けに書いた14の科学の物語をまとめたものです。

14のそれぞれの物語の結びで、博士は若い人たちを励まし、科学の魅力やその進め方を説いています。その一部を紹介しましょう。

▼これからの日本は、科学によってたてなおさなければならぬと、諸君もたびたび聞かされたであろう。それは正にその通りである。そしてそのためには、まず学問によって国の力をやしなうようにしなければならない。

—科学のすすめ方や本質については

▼研究というのは初めに簡単に考えたようには決まて行かないもので、初めの考えをだんだん変えて進歩させて行くことが研究なのである。

▼自然界に起こっているすべての現象は、本当に科学的に解明しようとするとき、どれもみな非常な困難を伴う問題である。自然というもの、もともと非常に奥深いもので、その奥に無限の神秘をひめているのであるから、当然の話なのである。

▼一つの現象をよく研究すると、それが原因であるところのすべての問題が、同時に解決されて行く。科学的な研究というものは一見迂遠(うゑん、遠まわり)に見えて、実は問題解決の一番の早道なのである。

—研究テーマについては、こう述べています

▼水のようにわれわれの生活に一番親しいものでも、こういういろいろ複雑な問題があるのであるから、自然というものはいくら研究しても問題がなくなるというような心配はない。

—そして、こう警告しています

▼「虹は水滴の反射屈折によるスペクトル作用さ」と言って、それ以上実際の虹を見ない人がいる。そういう人には虹の美しさが分からない。学問によって目をあけてもらうかわりに、学問によって目をつぶされた人である。

1994年

11月1日開館



10月31日 スロープ下のテントで行われた落成式。

# 20年 のあゆみ から

2000年

生誕100年記念  
雪のデザイン賞



金賞：マイクロコスモス・冬の一（平井 寛）  
その後、2年サイクルで継続されるようになった。

2004年～

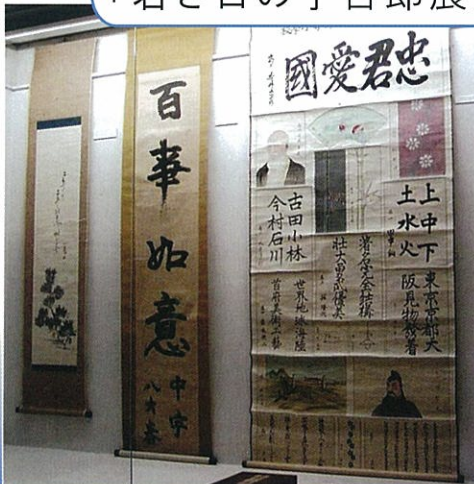
親子雪の観察会



北海道の大雪山麓旭岳温泉へ親子で出かけた。

2003年

「若き日の宇吉郎展」



宇吉郎が8歳の時書いた書などが注目された。

2005年

ラトビア「雪と氷との対話展」



交流会でラトビアと日本の歌を交互に紹介した。

2004年～

子ども雪博士教室



子ども雪博士まつりで子ども一日館長が登場。

2012年

没後50周年記念  
シンポジウム



壇上で挨拶する中谷咲子さん(右)と  
中谷英二子さん。(アビオホールにて)

# (新聞の読者投票) 中谷博士が日本の科学者の6位に

2000年は中谷宇吉郎博士の誕生100年の年でした。その年に朝日新聞が行った「これまでの千年で日本の優れた科学者は誰？」の読者投票で、博士は6位になりました。又、同じ年に、読売新聞が行った「21世紀に読み継ぎたい日本の名著は何？」と有識者に聞くアンケートで、博士の『雪』(岩波文庫)が3位になりました。大変喜ばしいことでした。博士が亡くなられて52年たちましたが、これからも加賀市出身の「雪博士」のことを多くの人に知って欲しいと思います。

朝日新聞2000年10月3日 読者投票結果表

この1000年日本の科学者 読者人気投票

1	野口 英世	5146
2	湯川 秀樹	3636
3	平賀 源内	1411
4	杉田 玄白	1330
5	北里柴三郎	913
6	中谷宇吉郎	891
7	華岡 青洲	693
8	南方 熊楠	679
9	江崎玲於奈	629
10	利根川 進	434

朝日新聞2000年10月3日

朝日新聞2000年10月3日

読売新聞2000年11月29日 日本名著ベスト10

順位	書名	著者名	統計	男女
1	日本書紀		79	①①
2	立正安国論	日蓮	46	②④
3	雪	中谷宇吉郎	45	③⑤
4	人生餘白	三木清	42	③⑤
5	三太郎の日記	阿部次郎	40	④⑥
6	善の研究	西田幾多郎	35	⑤⑥
7	「甘え」の構造	土居健郎	35	①③
8	十七夜講法	聖徳太子	31	⑧⑩
9	長と認識との出陣	島田百三	29	④⑥
10	塵世花伝	世阿弥	25	⑤⑥

読売新聞2000年11月29日

読売新聞2000年11月29日

## 中谷宇吉郎と、敬愛した恩師・寺田寅彦

太陽系の火星と木星の間を回っている沢山の小惑星の中に、ウキチロウとトラヒコの名前のものがあります。2人は優れた科学者なので、発見された小惑星に名前がつけられたのです。2人は文化人切手にもなっています。また、2人の名言はどちらも意味が深いことです。中谷博士は寺田先生とたくさん楽しいお話をしました。博士の随筆を読むとそれが出てきます。今でも天空で2人はお話の続きをされているのかもしれないね。

雪は天から送られた手紙である

天災は忘れた頃にやってくる

小惑星6514番Torahiko(寺田寅彦)

10152番Ukichiro(中谷宇吉郎)

地球

火星 水星 太陽 金星

土星

中谷宇吉郎 1900-1962

寺田寅彦 1878-1935

小惑星 Ukichiro (大友哲 1994 発見)

小惑星 Torahiko (岡崎 1987 発見)